

課題名：「空飛ぶクルマ」の社会実装における社会的課題解決についての基礎的検討

代表者：小島 立（九州大学 大学院法学研究院 教授）

参画機関：九州大学 大学院法学研究院/先進電気推進飛行体研究センター/人社系協働研究・教育コモンズ/
学術研究・産学官連携本部, 株式会社九州電力総合研究所 など



課題概要

本企画調査では、「空飛ぶクルマ」の社会実装における社会的課題解決に向けた基礎的検討を行う。「空飛ぶクルマ」を社会実装するには、解決しなくてはならない「倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）」が数多く存在する。「空飛ぶクルマ」という新しい移動手段は、私たちの生活の質（QOL）を向上させるのか？ また、どのように用いられるべきなのか？ さらに、「空飛ぶクルマ」を現実社会に導入する際にも、「空飛ぶクルマ」が社会に受容されるためには、機体や動力源の開発、インフラ整備、オンデマンド型の利用サービスを実現する情報システムや「プラットフォーム」の構築、都市計画や「まちづくり」のあり方などの相互に関連する社会的課題を同時並行的に解決することが求められる。本企画調査は、超伝導技術を駆使した電気推進システムを活用した電動航空機の開発で世界最先端を走る九州大学において、人文社会系と自然科学系の研究者が協働する形で、未来社会の基幹インフラとなり得る「空飛ぶクルマ」のもたらす社会像や価値観、そして、そのために解決すべき社会的課題についての予見的研究を学際的に推進する。

ポイント

政府が示しているロードマップによれば、「空飛ぶクルマ」は、2023年の事業開始、2025年の大阪万博での社会実装が目指されている。もしこの新しいモビリティ（移動手段）がより広範に社会に入ってくれば、私たちの生活環境に大きな変化が生じるだろう。

私たちの研究では、「空飛ぶクルマ」が社会実装される際のELSIについて、①「空飛ぶクルマ」の安全な運航、②「空飛ぶクルマ」が新しいモビリティのサービス（いわゆるMaaS）として実装される際の情報システム、サービスの「プラットフォーム」の構築、③「空飛ぶクルマ」が私たちの身体感覚、帰属意識、生活環境などに与える影響の3つに主に焦点を当て、自然科学系のみならず、法律学、人間環境学などの研究者が協働しながら、学際的な観点から研究を進めている。

（写真上から）12月2日開催のシンポジウム
北九州工業高等専門学校サイエンスカフェ
現在構築中のウェブサイト

